

平成30年度事業報告について

1 事業概況報告について

二本松市から指定管理を受けている「道の駅ふくしま東和（東和活性化センター）」を活動の拠点として、里山の経済活性化のための六次産業化、多様な交流の展開、震災後の里山の再生・復興の取り組みと地域の情報発信に努めてきました。

六次産業化の取り組みでは、震災の影響で延び延びとなっていた桑の加工に着手してから2年目を迎え桑の生産を拡大することができ、「桑の町東和」に一步近づきつつあります。全量東和産の桑の葉を使用した商品の特徴や魅力をPRしながら販売促進に努めました。

東日本大震災発生後から8年目を迎え、原発事故による放射性物質の影響も徐々に薄れつつあり、農業の生産活動や生活も震災前の状態に戻りつつあると実感できた一年でありました。

しかし、中山間地域で暮らす懸念材料は、山林の除染がなかなか進んでいないことで、里山の山菜の一部に未だ制限がかけられているものがあることです。また、農業生産活動においては、意を用いつつ耕耘や灌水などできる対策を講じています。しかし、不安があることから、生産された作物を測定してから食べることが当たり前になっています。

このような生産や生活環境の中でも、多様な活動や事業に取り組みました。特に、販売する農産物の、放射性物質の測定は、欠くことのできないと判断し、測定を継続する方針を維持しています。ホールボディカウンターも継続的に行い、11月に12回目の測定を実施しました。

あぶくま館店舗部門では、ブランド野菜「東和げんき野菜」等の店舗や福島市内の店舗で販売促進を行うとともに、都会での区民祭りや、多様なイベントに出店し、「東和げんき野菜」のPRと販売に努めました。併せて、福島の現状を理解していただくことの重要性に鑑みて、地域の取り組みの一端を伝え、福島県産の野菜等を食べていただくための活動を展開しました。

なお、直売所のメリットを最大限に活かすため、道の駅や店舗の環境整備に努めました。

さらに、定着してきた「日本蜜蜂の会」は毎月8日に「蜂の日のイベント日」を設定し、多くの来場者で賑わい、売り上げにつなげることができました。

特産加工部門では、桑の加工において荒茶加工のため、約28.5tの生葉を買い入れし、荒茶を加工し、桑商品等の販売促進のため各種の商談会に臨んできました。

里山ソース、アイス、ジャムなどの主力商品もの製造販売も継続しており、愛顧者に好評を博しています。

ナチュラルでは各種類のジェラートなどを作り販売に努めてきましたが、売り上げは前年を下回りました。ソフトクリーム製造機の故障による影響が大きかったと分析しています。

食堂部門のみちくさ亭の売り上げは前年に及ぶまでに至りませんでした。人気商品づくりや仕出し、賄膳などの工夫について検討してまいります。

ゆうき産直部門では、出荷制限となっているワラビの栽培に継続して取り組みました。生産拡大に向けて芽出ししたポット苗を栽培希望者に譲渡するとともに、現地指導会を開催しました。

里山再生計画の、災害復興プログラムの推進については、引き続き各大学の調査・研究に対しての協力を行いました。そのデータを視察者や関係者に開示してきました。

さらに、各種イベントや区民祭り等に積極的に参加し、都市との交流や、販売促進とあわせ、地域の活動や福島県の現状の情報発信に努めました。

なお、都市部での出展販売では、東京東和会の皆様に度重なるご支援を賜り、感謝申し上げます。

交流部門においては、各種ツアーを企画し、交流人口の拡大や、農家民宿の利活用、道の駅での買い物、農業体験など、地域経済につながるように努めました。

11月には全国地域づくり団体交流会福島大会が開催され、ゆうきの里では第2分科会を引き受けました。ゆうきの里の地域づくりの報告と交流会では、参加者と積極的な意見交換を行いました。

なお、来訪する外国人が年々増えてきていますが、ゆうきの里の活動の情報発信や農家民宿に宿泊してもらうことで、農家との交流や食文化に触れていただくことができました。

さらに、人事院行政初任者の研修地として選定を受け、東和地域の多くの資源に触れてもらうことができました。特に研修期間中は農家民宿を利用させていただきましたが、普段体験できない農家への滞在は大きな反響を受けました。

その他、多くの視察や道の駅の来訪者に、東和地域の色々な魅力を発信することができました。

また、新規の就農希望者の受け入れや、移住・定住希望者の支援活動等も積極的に行いました。平成30年度は1名の新規就農研修生を受け入れました。

多様な取り組みを展開しましたが、売上の状況についてはいろいろな要素が考えられますが、前年を下回る結果になってしまいました。

出荷農産物の減少傾向や3桁国道の沿線に設置されている道の駅であること、加えて夏の猛暑等などが影響したものと考えています。

今後も、どのような事業展開が、売り上げにつながられるのかを模索してまいります。

各種の事業や活動を計画通り進めることができましたのも行政機関等をはじめとする、多くの関係機関のご支援と、会員のご理解・ご協力の賜と感謝を申し上げます。

以上、事業概況報告といたします。

2 三つの再生の取り組み報告について

・農地の再生

有機的栽培と自主基準管理による「東和げんき野菜」の自主基準をクリアした「東和げんき野菜」の認定シール19.5万枚分（昨年20.5万枚、前年比で95.1%）の農産物を出荷しました。

耕作放棄地をなくすため、生産者会議等で生産拡大に向けた種苗等の斡旋等を行うとともに、堆肥と種苗に助成を行いました。

また、農地と農産物の放射性物質の調査等を行い、放射性物質が移行しにくい環境づくりに努めました。さらに、農作物出荷者の

圃場の土壌診断により、施肥設計や連作障害の発生防止に努めました。

しかし、耕作放棄地の再生については協議会独自による取り組みができませんでした。新規就農者へ農地の流動化を検討しました。

・山林の再生

森林資源を活用した、キノコ栽培や堆肥化、燃料化について検討を行い、森林再生のため放射性物質の調査等を行いました。

森林資源の活用が捗らない現状から、放射能による活用制限の脱却を目指して、大学等が開催する講演会等へ出席し情報収集に努めました。

森林の多面的機能等の理解を深めるための取り組みについては、今年度も前進に至りませんでした。

なお、野生のワラビについては、放射性物質の影響で栽培以外は収穫が見込めないため、栽培ワラビに切り替えることとし、育苗に重点を置きながら希望者に譲渡しました。

・コミュニティの再生

高齢者から子孫への地域をつなぐ一環として、農業従事者等会員のホールボディカウンター検査を行いました。

1月には健康増進事業を開催し健康状態等をチェックしました。また、各イベントでは当ステージステージにおいて、趣味などの発表や生きがいつくりの場として楽しんでもらいました。多くの方が登壇し、参加者や来場者同士の交流と親睦が図られました。そのほかに、生産者会議や会員研修、道の駅の環境整備などにより、会員同士のコミュニティを図りました。

さらに、各種な視察・研修、農業体験、農家民宿等により、地域の取り組みや情報発信など多様な交流を展開しました。

3 各委員会報告について

(1) 特産加工推進委員会

◆委員会方針 「桑の里づくりを目指し、桑事業（製造・商品開発・販売）の展開と六次産業化により、特産の持続可能な体制づくりを進めました」

◇重点実施事項

①製茶（荒茶）機械導入に伴い、製造技術の向上と人員の確保により安定的な生産に努めました。28.5トンの生葉を59日間稼働し、6.4トンの荒茶を製造しました。

②桑の加工やアイス等の農産物の六次産業化については、継続して商品づくりに努めました。

・里山ベジソースの製造工程を見直し、より安定した商品を製造することが出来ました。

・ソフトクリーム機械の故障により、売り上げに大きな影響がでました。

③マスメディアへの出演によるPRや各種のイベントに出店するなどして、売上アップに努めました。

④他店舗等への販売促進と桑商品のユーザーの確保に努めました。

◇加工部門販売内訳

単位：千円

部 門	30年度計画	30年度実績	計画比	摘 要
桑加工	24,210	19,838	81.9%	パウダー、お茶
ジャム加工	2,000	1,598	79.9%	ジャム、ソース、他
漬物加工	1,400	1,031	73.6%	漬物、梅干し、他
合 計	27,610	22,467	81.3%	

※①出典：2期比較損益計算書

※②平成30年度実績値合計には出張販売分の一部含む

(2) あぶくま館店舗委員会

◆委員会方針 「人気商品を中心に品揃え、売り場全体を盛り上げていく販売戦略を自ら考え、実践しました」

◇重点実施事項

- ①お客様を最優先に考える対応とおもてなしに努めました。
- ②道の駅のPR活動と「東和げんき野菜」や特産品の特徴を把握し、お客様への説明の充実に努めました。
- ③アイス部門では、地元の野菜などの素材を活かしたアイスの販売に努めました。
- ④食堂部門では、地元のお客様にも喜ばれる日替わりメニューを提供することができました。
- ⑤市民農園の利活用では収穫した野菜を食堂などに提供するとともに、販売もしました。
- ⑥農産物の加工では、冬期に「凍みもち」を製造しました。春から初夏に食堂部門で加工して販売し、人気商品の一品となりました。
- ⑦毎月の8日を「蜂の日」として銘打ちイベントを開催し、多くの方々に参加していただきました。12回の開催で、参加者総数387名の参加がありました。回数を重ねるごとに活気が出てきています。
- ⑧定期的にイベントを開催し、道の駅の知名度アップと誘客に努めました。

※別添、年間行事一覧表を参照ください。

◇あぶくま館店舗部門販売内訳

単位：千円

部 門	30年度計画	30年度実績	計画比	摘 要
展示販売	117,000	109,101	93.2%	あぶくま館
他店舗販売	20,000	20,650	103.2%	ヨーカドー・コープ・市場屋・たなつものや
資 材	700	623	89%	包材等
出張販売	3,500	2,030	58%	区民祭り等
合 計	141,200	132,404	93.7%	

※出典：年度月別施設使用料、利用状況原本提出用（個人資料）

◇営利部門販売内訳

単位：千円

部門	30年度計画	30年度実績	計画比	摘要
食堂・惣菜	15,000	12,821	85.4%	みちくさ亭・あぶくま館
アイス	8,000	5,245	65.5%	ナチュレ
合計	23,000	18,066	78.5%	

※出典：2期比較損益計算書

(3) ゆうき産直支援委員会

◆委員会方針 「堆肥の施用と土壌診断で品質と生産力アップを推進しました」

◇重点実施事項

①土づくりと土壌診断

- ・「東和げんき野菜」の品質向上のため、げんき堆肥の利用拡大による土づくりと土壌検査、土壌分析による診断指導の強化を図りました。
- ・げんき堆肥等の購入費用の一部助成として、13件で30,283円の助成を行いました。

②農産物の品質向上

- ・栽培技術指導者を配置し、品質の向上を目指しました。また、生産者会議を開催し、技術指導と情報提供を行いました。
- ・収穫祭において農産物品評会を開催しました。また、直売所視察などにより、出荷農産物の品質向上に努めました。

③生産拡大に向けた取り組み

- ・種苗や有機質肥料資材等の共同購入（ジャパンバイオフィーム）と種苗の助成支援（市のそ菜種苗補助事業）を行いました。
- ・ゆうき産直の売上は、夏場の低温等の影響や会員の減少などから目標に届きませんでした。
- ・種苗購入費用の一部助成として、10件で27,916円の助成を行いました。
- ・栽培ワラビ用の苗を3,000ポット育成し、希望者に譲渡しました。

単位：千円

部門	30年度計画	30年度実績	計画比	摘要
ゆうき産直	22,600	21,356	94.5%	トマト・キュウリ・ミニトマト・ナス・ネギ・カブ
学校給食	100	157	157%	
合計	23,700	21,513	94.8%	

※北庄フェーバー（株）、福島中央青果株式会社の売上分のみ計上

(4) 交流定住促進委員会

◆委員会方針 「東和の魅力をまるごと活かした『行ってみたい、また来てみたい、いつか住んでみたい』地域づくりを推進しました」

◇重点実施事項

①多様な情報発信と交流の展開

- ・教育旅行受入れのため、旅行会社の問い合わせ等に対応しました。7月に東京都荒川区の原中学校の生徒22名を受け入れし、農業体験や農家民宿での宿泊体験と、

受入れ農家との交流を深めました。

- ・6月と7月には国家公務員の初任者研修生の受け入れを行い、農家民宿利用による農業体験や震災後の農業再生の状況説明と津波被災地等の現状などの視察も行いました。
- ・福島県のこらんしょ農家民宿・里山の魅力向上事業のモニターツアーが9月27日～28日に実施され、東和の魅力を感じていただくことができました。
- ・農業体験と組み合わせた田舎暮らしツアーを3月16日～17日に実施し、里山の魅力の発信と先輩移住者と交流会を行いました。
- ・都市との交流事業では、4月に東京東和会の総会と荒川川の手まつり、10月には墨田区民祭り、12月にはふくしま大交流フェア等へ出展し、東和の物産販売と魅力の発信を行いました。
- ・第12回あぶくまふるさとウォークを11月4日（日）に開催し、晩秋の東和路を堪能していただきました。参加者は308名でした。
- ・第36回地域づくり全国研修交流会福島大会が11月16日～18日に開催され、ゆうきの里東和では第二分科会会場を引き受けました。全国から17名の参加がありました。地域づくりの報告や参加者同士の交流を深め、二本松市や東和地域の良さを発信しました。
- ・県内外の行政、大学、企業等の視察研修の受け入れによる地域間、多世代間の多様な交流を展開しました。

なお、視察研修の受け入れは件数で26件、視察者は196名でした。

- ・多様な機会を通じて、ゆうきの里の取り組みや地域情報の発信に努めました。

②新規就農相談・支援と里山暮らしの推進

- ・福島県の補助を受け、新農業人フェア等の相談会に臨み、新規就農希望者の相談と地域の情報提供のため、新農業人フェアに1回（1/26）参加しました。7名の相談がありました。また、ふくしま大交流フェア（1/29）や里山暮らしセミナー（2/3）へ出展し、移住の相談に応じました。
- ・ふるさと回帰フェア（9/9）へ参加し、相談ブースを出展しました。15名から相談があり、東和地域への移住等を勧めました。
- ・相談会やセミナー、ツアーには新規就農者や移住者にも協力をいただき、生の声を届けるなど相談会の充実を図りました。
- ・新規就農（里山暮らし）モニターツアーを3回開催し、新規就農や移住を勧めました。相談件数は多くあったものの、平成30年度の新規就農研修支援の事業対象者は1名でした。なお、地域の魅力の発信に努めました。
- ・移住・定住の誘導支援と空き家実態調査のため、情報収集に努めました。
- ・遊休地等の情報収集に努めましたが、農地を必要とする状況が発生しなかったため流動化までには至りませんでした。

③東和地域グリーンツーリズム推進協議会との連携

- ・滞在型交流の促進のため、農家民宿の利用推進と新規資格取得者の支援を行いました。
- ・農家民宿数は23戸となり、平成30年度の宿泊利用者は1,171名（ゆうきの里を介した宿泊者とダイレクトの利用者の合計）でした。
- ・震災後の地域復興に果たした農家民宿の役割は、各方面より注目されています。
- ・地域の自然、歴史、資源等を組み合わせたモニターツアーの企画立案と募集を行いました。

- ・受け入れ体制整備として農家民宿の拡大やインストラクター育成を図るため、先進地視察など多様な研修会の参加や味噌づくりの実践体験などを行いました。
- ・昨年に引き続き、人事院から行政初任者研修所に選定を受けて、3班6名ずつ合計18名を受け入れし、90泊の農家民宿利用と農業体験や観光により里山の力を堪能していただきました。

(5) ひと・まち・環境づくり委員会

- ◆委員会方針 「笑顔あふれる健康の里づくりと環境に配慮した里山の暮らしを活かす優しいまちづくりの推進を図りました」

◇重点実施事項

①健康づくりの意識喚起と実践

- ・会員の健康相談の機会確保のため、二本松市の協力を受けて健康相談会を毎月開催しました。相談者は述べ147名で前年度より増えました。自分の健康は自分で守る意識を今後も高めていきたいと思えます。
- ・1月25日に健康増進事業を実施しました。41名の参加がありました。13名が宿泊し交流を深めました。なお、異常なしとの診断結果を受けたのはわずか3名でした。
- ・始業前のラジオ体操を会員や職員で継続して取り組みました。
- ・第12回目のホールボディカウンターを11月に実施し、体内の被爆の状況を測定しました。測定者は11名でした。今回も微量ではありますが、内部被ばく量が検出された方がいました。

②桑カードの普及と再利用促進

- ・桑カードを活用してもったいない意識の高揚を図りつつ、環境への配慮に努めました。マイバックの普及とゴミの減量化を啓発しました。
- ・7月の創業祭と11月に開催した収穫祭においてフリーマーケットを開き、もったいない運動の実践を行いました。

③農村文化や生活文化の伝承と魅力ある資源の活用

- ・農村文化等の掘り起しや地域の価値ある資源の活用のため教室を開催しました。
- ・干し柿づくり教室やしめ縄づくり教室の開催と「団子さし」などの行事を行いました。11月10日(土)の干し柿づくり教室には11名が参加、12月15日(土)のしめ縄づくり教室には6名が参加しました。2月3日(日)の「団子さし」の伝統行事には地域の子供達や一般の方の参加もあり、親子の触れ合いや参加者の交流の場にもなりました。
- ・市民体験農園等の適正な管理と活用を図りました。ジャガイモ、ナス、サツマイモ、トウガラシ、シソなどを栽培し、体験等もしてもらおうとともに食堂や新たなモノづくりの原料として使用しました。
- ・農園の土地利用を定着させるため、展示圃を兼ねてワラビの植栽も行いました。

④新しい文化の創造と生きがい支援

- ・各種イベントにおいて、趣味や習い事、芸能などを発表する場として企画し、参加を促し、文化の創造と生きがいづくり支援を行いました。
- ・特に創業祭や収穫祭のステージイベントには多くの方々が出演しました。

4 施設指定管理

- ◆方針 「施設の適正な管理・情報発信による地域の活性化と、ふくしまアフターDCへの対応のため、施設の美化と安全性の確保に努めました」
- ・道の駅及び活性化センターの目的に沿った利用促進に努めました。
 - ・地域の情報発信の強化策として重点月を絞ってイベントを企画して実施しました。
 - ・施設の適正かつ円滑な管理運営と来館者や交流人口の増加に努めました。
(来館数416,250人/前年比91.5%)
 - ・施設利活用向上のため、視察の受入れ、農産物の加工、栽培技術指導会、健康相談会等を開催しました。また、地域内の利用促進を図りました。
 - ・施設・設備・機器等の点検等を行い、利用者の利便性と事故未然防止に努めました。
 - ・施設、設備の基盤的な維持管理業務は専門業者に委託し、定期点検を行いました。
 - ・日常の管理面では事件・事故・火災の発生防止に努めました。また、火災が発生した場合を想定した、避難訓練と消火訓練を行いました。
 - ・施設の活用により、高齢者の生きがい創造と地域コミュニティの増進及び定着に努めました。
 - ・来館者へのサービス向上と緊急時に対処するため、職員の教育と訓練を行いました。
 - ・道の駅の利活用増進のため、施設の改修や利活用方針策定等について市と協議を行いました。急を要する箇所等の修繕や整備については、二本松市の迅速な対応により対処していただきました。
 - ・当協議会の取組や災害復興プログラムなどを資源とした研修や視察の受け入れにより、協議会の認知度を高めることができました。
 - ・会員の協力による奉仕作業として、施設内外の草刈等の環境整備を6月と10月に実施し、施設周辺の環境美化に努めました。
 - ・農村公園の構外樹木が電線等へ支障をきたす恐れがあることから、市との協議のもと理事の協力により、3月16日(土)に伐採作業を行いました。

※施設の使用状況

・会議室	利用回数	177回	利用人数	2,844名
・ガーデン室	利用回数	32回	利用人数	486名
・調理室	利用回数	365回	利用人数	730名
・加工室	利用回数	13回	利用人数	53名
・駐車場	利用回数	34回	利用人数	38名

5 災害復興プログラムの継続(平成30年度の取り組み)

①会員の風評被害等の損害賠償請求の支援

- ・前年度に引き続き、農家の再生産費確保のため、東京電力株式会社に対する損害賠償個別相談会を設定し、会場の確保とデータ作成等の支援を行いました。年々相談者が減少してきています。

②各大学への調査研究協力

- ・大学、関係機関によるプロジェクト連携事業(三井物産環境基金、営農再開のための放射性物質対策技術の開発)への調査等の協力を行いました。
- ・農産物を中心とした測定と耕地の放射性物質測定に協力しました。
- ・特に東京農工大学の放射性セシウム吸収抑制メカニズムの解明研究への側面的な協力・支援を行いました。

③農産物等の測定による安全性の確認（放射性物質の摂取回避）

- ・本年度の測定件数は347件でした。測定開始からは10,568件の測定数となりました。
- ・出荷物の測定継続と負担軽減のため作物ごとや地区別抽出測定を検討する計画でありましたが、残念ながら取り組みには至りませんでした。
- ・農産物への放射性物質移行低減のための栽培技術の研究と情報発信を行いました。

④農産物の生産拡大と販売出荷支援（風評被害対策）

- ・農産物生産拡大のため、生産者会議において生産拡大の啓発や種子・種苗の斡旋、栽培技術の研究に努めました。
- ・「東和げんき野菜」の出荷先チャンネルの拡大や集荷・出荷の支援を行いました。

⑤会員と家族の健康を守る取り組み

- ・ホールボディカウンターの測定を継続しました。NPO法人ふくしま30年プロジェクト（福島市）の協力を得て、第12回目の測定を行いました。各々測定結果について測定担当者から説明を受けました。
- ・災害復興プログラムの7年間のデータ等をもとに、山林等の活用を模索しました。

⑥企業等からの協力と支援

- ・NPO法人ふくしま30年プロジェクトと連携により、ホールボディカウンターの測定の円滑化が図られました。
- ・プレマ株式会社様から機材の無償貸与の継続
放射能NAI測定器2台、ガイガーカウンター10台
- ・株式会社カタログハウス様から機材の無償貸与の継続
放射能NAI測定器1台、放射能NAI空中線測定器1台

6 各種補助事業の取組

平成30年度において、下記の補助事業に取り組みしました。

◇ゆうきの里東和ふるさとづくり協議会事業主体分（連携等も含む）

- ①地域おこし協力隊員活動支援業務（活動支援、住環境整備、研修）・・・二本松市
- ②野菜生産出荷安定事業（そ菜種苗購入助成事業）・・・二本松市
- ③移住定住推進事業（PR活動、モニターツアー等）・・・二本松市
- ④新規就農者研修支援事業（新規農業者育成）・・・二本松市
- ⑤新規就農相談業務委託事業（相談業務等）・・・二本松市
- ⑥第36回地域づくり全国研修交流会福島大会（交流）・・・福島県
- ⑦ふくしま県北定住促進事業（移住・定住相談業務）・・・福島県

◇東和地域グリーンツーリズム推進協議会事業主体分

- ①グリーンツーリズム推進事業（交流・定住促進）・・・二本松観光協会
（東和地域グリーンツーリズム推進協議会の事務支援を行う）

◇地域づくり団体支援事業（実行委員会事務等支援）

- ①市民との協働による地域づくり事業（夏まつり）・・・二本松市
- ②あぶくまふるさとウォーク補助事業・・・二本松市

4月行事

5月行事

1	日		1	火	市役所観光課挨拶、合同会議
2	月		2	水	げっきんチェック収録
3	火	電気式はかり所在場所検査、事務打合せ、ミニトマト苗配布	3	木	ふくしまFM放送
4	水		4	金	
5	木	わらび現地調査	5	土	
6	金		6	日	
7	土		7	月	健康相談会
8	日	日本蜜蜂クラブ、東京東和会総会	8	火	日本蜜蜂クラブ、県北地方振興局挨拶
9	月	健康相談会、わらび育苗作業、ふくしまFM収録	9	水	決算監査、食品検査
10	火	ミニトマト苗配布	10	木	GAP勉強会、たなつもの新規オープンセレモニー、マイナビ説明
11	水	アグリビジネス役員会、新規就農希望者面接、NHKはまなかあいづ放送	11	金	
12	木		12	土	
13	金	特産・商品戦略合同委員会	13	日	クラブツーリズム食事
14	土	さくらフェア～15日、根本匠議員在籍20年祝賀会～15日	14	月	ふくしま100の会食事、地域づくり分科会実行委員会、なす苗配布
15	日		15	火	県知事賞表彰式、農家民宿対象保健所立入調査、福島観光圏WG
16	月		16	水	クラブツーリズム食事
17	火		17	木	ガラス・換気扇・床清掃
18	水	わらび現地調査、パート希望者面接、第一トラベル食事、うすい販売、ふくしま道の駅総会、店舗委員会	18	金	移住定住ツアー打合せ
19	木	しんきんの絆交流会、地域おこし協力隊事業打合せ	19	土	クラブツーリズム食事、あうたび視察、新宿御苑販売～20日
20	金	経営NPO支援センター打合せ、移住希望者空き家案内	20	日	ユニセフ募金活動
21	土	あきば観光食事、ミニトマト苗配布	21	月	ワラビ苗配布、汚泥汲み取り
22	日	松香フォニックス福島研究会	22	火	ごぼうコロケ取材
23	月	宮嶋会計事務所決算処理、県職員打合せ	23	水	合同会議・理事会
24	火		24	木	農家民宿対象保健所立入調査
25	水	環境省打合せ	25	金	
26	木		26	土	平成29年度総会、須賀川民話の会食事
27	金	日本政策金融公庫訪問、地域づくり分科会実行委員会	27	日	
28	土		28	月	トマト特裁現地確認、東北「道の駅」総会、県北地方振興局打合せ
29	日	川の手荒川まつり	29	火	
30	月	コモンズインタビュー	30	水	岳温泉観光協会総会
			31	木	東電賠償個別相談会、東和小3年生見学

2月行事

3月行事

1	金	食品表示法研修会	1	金	地域と集落の農業を考える意見交換会
2	土		2	土	福島県道の駅マルシェふくしま～3日
3	日	だんごさし、里山暮らしセミナー	3	日	
4	月	健康相談会、ナチュレ打合せ、第2回運営戦略会議	4	月	健康相談会、トヨタレジャース車検、二本松市統一ブランド検討協議会
5	火	東和地域「人・農地プラン」懇談会、GT味噌作り研修	5	火	
6	水		6	水	アグリビジネス総会・研修会
7	木	骨盤調整体験	7	木	骨盤調整体験
8	金	子プロセミナー、有機農業堆肥づくり・土づくり研修～10日、日本蜜蜂クラブ、交流定住委員会	8	金	第3回運営戦略会議、日本蜜蜂クラブ、農家民宿連絡部会、業務会
9	土		9	土	GT研修
10	日		10	日	
11	月		11	月	県北地方振興局打合せ
12	火	マルシェふくしま出店説明会	12	火	県北農林事務所打合せ
13	水		13	水	ソフトクリーム機械入替工事
14	木		14	木	わらびの育苗作業
15	金	二本松市統一ブランド検討協議会、県きのこセミナー	15	金	定例健康相談会打合せ
16	土		16	土	H31年度ASA企画打合せ、田舎暮らしモニターツアー～17日、講演樹木伐採作業、農工大横山先生退官記念講演会
17	日		17	日	新規就農研修生受入農家の選定打合せ
18	月	都市と農山漁村の交流・移住実務者研修～19日、自動ドア点検、合同会議	18	月	二本松市移住支援団体等意見交換会
19	火	東北「道の駅」担当者研修～20日、消防設備点検	19	火	会津若松の観光説明会、みちくさ亭打合せ、GNSふくしま産業賞受賞祝賀会
20	水	アグリビジネス監査、信金事業地域づくり講演会	20	水	カーワックス実演会～25日
21	木	ウィッグユキ展示販売、本田屋本店打合せ	21	木	
22	金		22	金	生産者会議、福大農地調査の報告会
23	土		23	土	
24	日	うたごえ喫茶、地域おこし協力隊全国サミット	24	日	
25	月		25	月	二本松市統一ブランド検討協議会
26	火	ナチュレ券売機保守点検、最上川中流土地改良区視察、桑の葉生産者会議	26	火	飲料売上向上セミナー、プロジェクトF21懇談会
27	水	山菜取扱い説明会	27	水	にほんまつDMO総会、合同会議
28	木	東和小夢をかたろう会、百戦錬磨打合せ、地域づくり監査、GTとの意見交換会	28	木	
			29	金	
			30	土	
			31	日	

貸借対照表

(単位：円)

ゆうきの里東和ふるさとづくり協議会

平成31年 3月31日現在

資 産 の 部		負 債 の 部	
科 目	金 額	科 目	金 額
【流動資産】	【 22,674,903】	【流動負債】	【 21,420,209】
現金及び預金	10,952,247	買掛金	1,320,868
売掛金	2,762,511	未払金	6,237,890
製品	2,153,908	前受金	3,431,000
原材料	6,786,237	預り金	10,358,451
立替金	20,000	納税充当金	72,000
【固定資産】	【 15,674,293】	【固定負債】	【 6,928,000】
(有形固定資産)	(15,664,293)	長期借入金	6,928,000
建物	7,133,474	負債の部計	28,348,209
構築物	54,296	純資産の部	
機械装置	8,476,515	【株主資本】	【 10,000,987】
車両運搬具	2	【利益剰余金】	[10,000,987]
工具・器具	6	(その他利益剰余金)	(10,000,987)
(投資その他の資産)	(10,000)	繰越利益剰余金	10,000,987
出資金	10,000	(うち当期純損失)	(490,321)
		純資産の部計	10,000,987
資産の部計	38,349,196	負債・純資産の部計	38,349,196

損 益 計 算 書

(単位：円)

自 平成30年 4月 1日

ゆうきの里東和ふるさとづくり協議会

至 平成31年 3月31日

科 目	金	額
【売 上 高】		
会 費 収 入	651,860	
管 理 業 務 委 託 料	10,100,000	
売 上 高	47,442,920	
施 設 使 用 料 収 入	6,592,733	
手 数 料 収 入	12,529,957	
委 託 金 収 入	7,446,275	84,763,745
【売 上 原 価】		
期 首 商 品 棚 卸 高	2,577,347	
仕 入 高	4,945,852	
当 期 製 品 製 造 原 価	24,376,109	
合 計	31,899,308	
期 末 商 品 棚 卸 高	2,153,908	29,745,400
売 上 総 利 益		55,018,345
【販 売 費 及 び 一 般 管 理 費】		55,659,264
営 業 損 失		640,919
【営 業 外 収 益】		
受 取 利 息	2,027	
雑 収 入	184,669	186,696
【営 業 外 費 用】		
支 払 利 息	92,753	
雑 損 失	3,575	96,328
経 常 損 失		550,551
【特 別 利 益】		
寄 付 金 収 入	132,230	132,230
税 引 前 当 期 純 損 失		418,321
法 人 税 ・ 住 民 税 ・ 事 業 税		72,000
当 期 純 損 失		490,321

販売費・一般管理費内訳書

(単位：円)

自 平成30年 4月 1日

ゆうきの里東和ふるさとづくり協議会

至 平成31年 3月31日

科 目	金 額
役 員 報 酬	1,200,000
給 料 手 当	20,292,422
法 定 福 利 費	2,851,985
謝 礼 費	80,426
通 信 費	684,523
事 業 費	8,040,171
水 道 光 熱 費	6,000,105
旅 費 交 通 費	130,908
販 売 促 進 費	1,239,139
広 告 宣 伝 費	273,651
開 発 研 究 費	7,080
接 待 交 際 費	39,442
研 修 費	51,442
会 議 費	525,878
消 耗 品 費	1,708,098
新 聞 函 書 費	95,556
修 繕 費	236,170
地 代 家 賃	1,550,961
車 両 関 係 費	630,823
保 險 料	593,622
手 数 料	1,503,586
減 価 償 却 費	3,127,197
委 託 料	2,564,758
租 税 公 課	245,839
環 境 整 備 費	9,649
リ ー ス 料	1,623,785
支 払 手 数 料	161,078
雑 費	4,177
諸 会 費	186,793
合 計	55,659,264

製造原価報告書

(単位：円)

自 平成30年 4月 1日

ゆうきの里東和ふるさとづくり協議会

至 平成31年 3月31日

科 目	金 額	金 額
【材 料 費】		
期首材料棚卸高	6,545,485	
材 料 仕 入 高	9,540,256	
合 計	16,085,741	
期末材料棚卸高	9,978,187	6,107,554
【労 務 費】		
給 料 手 当	13,119,308	13,119,308
【外 注 加 工 費】		425,776
【製 造 経 費】		
動 力 光 熱 費	3,281,373	
燃 料 費	2,436	
消 耗 品 費	1,430,309	
修 繕 費	6,953	
通 信 費	2,400	4,723,471
当期総製造費用		24,376,109
合 計		24,376,109
当期製品製造原価		24,376,109

